

### 【概況説明】

平成24年度の収支状況等を分析してみると、大学において平成21年度に開設された看護学科が4年目の完成年度を迎え学生数が増加したことにより、前年度に比して学生納付金収入が増加しました。支出面では、大学での老朽化した空調設備の更新、高等学校のネットワーク機器更新、音楽棟新築等、施設・設備関係支出の増加が発生しましたが、種々の経費節減努力により人件費をはじめ諸々の支出を減少させることができました。その結果、資金収支では昨年度よりさらに多くの次年度繰越支払資金を生み出すことができ、消費収支においても帰属収入は消費支出を上回っており、基本金組入れ後の消費収入に対する消費支出は支出超過の状況ではありますが、超過額は抑制傾向となっています。今後も学園全体で学生募集を順調に進めるとともに、より一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、次年度以降も収支比率を悪化させることなく、より好転していけるよう努力していく必要があります。

また貸借対照表には負債額が計上されていますが、これは高等学校において例年適用を受けている愛知県私学振興事業財団の授業料軽減貸付金ならびに施設設備整備費貸付金の償還に要する財源として愛知県から全額補填されるものであり、実質的には負債額ゼロのため、負債比率が極めて低く、自己資金率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態であるといえます。